

一般社団法人日本専門医機構（第6期）

2024年度第2回（第6期2回）外部評価委員会 議事録

開催日時	2025年3月21日（金）13時00分～14時34分	
開催場所	日本専門医機構会議室+WEB会議	
出席者	委員長	岩本 裕
	委員	當麻 あづさ（WEB）
		中島 正治（WEB）
		山口 徹
	理事長	渡辺 毅
	事務局	事務局 他
欠席者	委員	神津 カンナ

議事次第

1. 2024年度第1回外部評価委員会（1/23開催）議事録案の確認

岩本委員長より2024年度第1回外部評価委員会（2月23日開催）の議事録案の確認が行われ、異議なく承認された。

諮問事項

2. サブスペシャルティの現状について

渡辺理事長より、サブスペシャルティ領域に対して当機構が担うべき役割、制度設計および関与する範囲を中心として、現在議論されている内容や、今後のシステム管理方法等について説明がなされた。委員からは、複雑なサブスペシャルティを整理した努力は評価するが、国民理解とは乖離があるのではないか、サブスペシャルティの基本ルールを明確にし、国民にわかりやすい分類や定義の再考を検討する必要があるのではないかとの指摘がなされた。

1) サブスペシャルティ専門医制度の概要について

答申)

- ・ サブスペシャルティをここまで統括していることは評価できるが、今の説明で分かる国民は皆無と感じる。一般の医師でも理解が難しいのではないかと。
- ・ 患者が知ることができるのは専門医の名称であり、それを機構が保証していることは非常に重要である。カテゴリー1,2,3のような分類や線引き、特に「機構認定」と「機構承認」の違いが不明瞭で、どのように扱っていくのか非常に疑問である。承認という形では広がりすぎる懸念がある。
- ・ 機構としては、認定に足る内容と社会的意義があるかを重視し、保証できる領域については認めるという形でよいのではないかと。患者に選択肢を提供することは別の政治的議論であり、機構が関わる必要はないと考える。
- ・ 家庭医からサブスペシャルティ専門医へ紹介する方法があるべき姿と考えている。
- ・ 学会認定であれば学会認定のまま運用し、機構は担保できる領域のみ認定していけば良い。

## 2) サブスペシャルティ領域 専門医名称について

答申)

- ・ 学会同士の事情は理解できるが、医師だけで議論をすると打算的になり得る。最終的な拠り所は、国民の目線で分かりやすいかという点であり、国民を対象とした意見聴取により、実際の受け止め方やデータ収集を行うべきである。
- ・ 世論調査的なものは必要だが、設問が長すぎると回答されない場合もあるので工夫してほしい。
- ・ サブスペシャルティ領域が重複していることや、類似の専門医名称があることは、国民にとって不親切ではないか。
- ・ 現在の日本の医療では、患者が自らサブスペシャルティ専門医を選ぶことができるため、広告可能な専門医が増えると患者に対し多数の中から自己判断で選択することを求めているように受け取られないか懸念される。そこを機構が整理するべきだと思う。
- ・ 昔の最先端が今では標準治療となっていることを鑑みても、昔からある名称を含めて再検討してもいいのではないか。
- ・ 公的にシャッフルしてしまうと、広告規制の話になる可能性も強く懸念される。
- ・ 急速に進歩している医学・医療を国民に分かりやすく定義しようという思索は無理があるのではないか。名称はある程度自由に名乗らせて、それを機構が判断し認めれば良いと考える。

## 3) サブスペシャルティ領域の運営とデータ保有における機構の役割について

答申)

- ・ システム(JMSB Online System+)については一度どのように運用されているのか実際に見せてほしい。

## 3. 機構事務局の体制について

渡辺理事長より当機構の事務局体制の現状と今後の展望について説明された。また、当委員会で得た意見については、機構体制検討ワーキンググループの課題の1つとして提起する意向が示された。

### 1) 職員給与の基準について

答申)

- ・ 職員の俸給表および評価基準は早急に整えるべきである。

### 2) 事務局体制について

答申)

- ・ 管理部門と事業部門それぞれを統括する管理職がおり、その上に事務局長や理事がいるピラミッド組織が健全な組織の作り方ではないかと考える。組織図も事業拡大に合わせて変更していくべきである。
- ・ 常勤の理事については検討するべき。

## 4. その他

渡辺理事長より、役員を選考方法について本委員会からの意見を求められた。また本件に関しては引き続き答申を求めたい旨の発言もなされた。

答申)

- ・ 再提起になるが、継続性担保のため、役員の選び方や任期を再考する必要がある。理事・委員は半数交代（半数改選）にすべき。この意見はきちんと受け止め協議してほしい。
- ・ 「理事及び監事候補者選考委員会」の構成についても再考すべき時期ではないか。いわゆる利益代表的な立場からの候補者が出てきており、さらに候補者選出が各学会の推薦に基づいて行われている点についても、若干の疑問を感じる。
- ・ 将来的にも新陳代謝のできる組織であるべきと考えている。

以上